

平成 21 年 2 月

木下博司 学位論文審査要旨

主 査 重 政 千 秋
副主査 中 島 健 二
同 神 崎 晋

主論文

糖尿病性末梢神経障害の評価における電流知覚閾値(CPT)の有用性

(著者：木下博司、谷口晋一、井上和興、大倉毅、松澤和彦、馬場裕生、石田和史)

平成21年 米子医学雑誌 掲載予定

審 査 結 果 の 要 旨

本研究はNeurometerを用いて、CPT測定を行い、さらに、病期進行とCPTとの関連性を分析することで、CPTが神経障害の診断と重症度判定に資する検査であるか否かを検討したものである。その結果、病期分類Ⅱ期以降では病期進行とCPTが刺激周波数にかかわらずよく対応するものと考えられた。また、Ⅰ期（前症候期）の一部の症例でCPT値上昇が認められること、逆に感覚過敏に対応するCPT低値を示す症例があることは、CPT測定が末梢神経障害の早期診断に貢献しうる可能性を示した。

本論文の内容は、CPT測定の有用性と可能性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。